

「予防と支援の一体化」をめざした取り組みを

1 予防（出席状況の把握・家庭訪問，Q-Uの活用，授業改善）

(1) 日々の出欠状況の把握と欠席時の家庭訪問

日々の出欠状況に敏感になることが予防の第一歩です。3日間連続した欠席や月3日程度の欠席が続いていると要注意です。病気連絡でも学校を回避する気持ちがないか、欠席している時の理由や状態，曜日等に留意することが必要です。そして，子どもに何か変化を感じたら，すぐ家庭訪問をしましょう。短時間でも心配している思いを届けることにより，信頼関係が深まります。

(2) 「楽しい学校生活を送るためのアンケートQ-U」の具体的・効果的な活用

Q-Uの結果を毎日の学級経営や授業改善に生かす

不登校を予防するためには，子ども一人ひとりに居場所があり，子どもが行きたくなる・来たくなる「魅力ある学級・学校づくり」を進めることです。毎日1時間1時間の授業が楽しくわかることが最大の不登校対策となります。高知市の場合，人間関係に起因するケースもありますが，授業がわからなくなり，学習意欲が低下し，学校を休みはじめると子どもが多くいます。



- ① Q-Uアンケート実施に関する共通理解を図る。
- ② 第1回目：5月中旬～6月初旬に実施する。
 - ・ アンケート結果の集計
 - ・ 見立てと支援の方向性，具体的な対応を考える（学年会，職員研修会等で検討する）。事例検討会を実施する。
 - ・ 具体的な対応，教育実践をする（6月～9月）。
- ③ 第2回目：10月中旬～11月初旬に実施する。

特に，非承認群に位置する児童生徒への対応が鍵を握っています

2 支援（累計10日以上欠席調査，個別指導計画，チーム支援）

・初期対応，再登校をめざした支援の充実

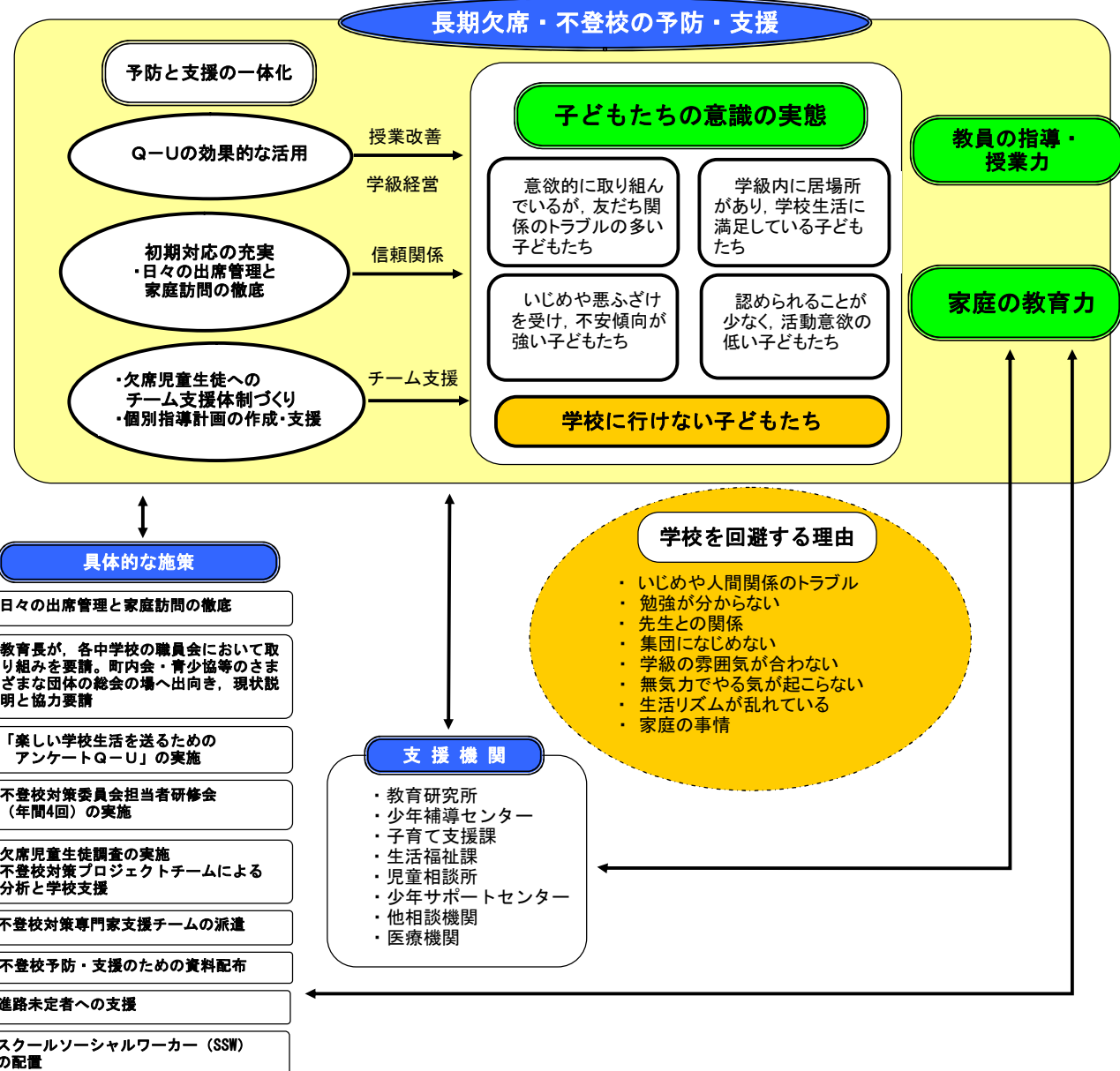
本年度は，累計10日欠席児童生徒調査を実施し，チームで充実した支援を行います。

- ① 累計10日欠席をした時点で，不登校担当者・管理職等に報告する。
- ② 累計10日欠席で支援チームを編成する。
- ③ 長期欠席・不登校児童生徒個別指導計画を作成し，チームで具体的な対応をする。
- ④ 定期的にチーム支援会議を開き，見立て，支援の方向性，具体的な対応について話し合う。
- ⑤ 役割を分担し，チームで支援にあたる。

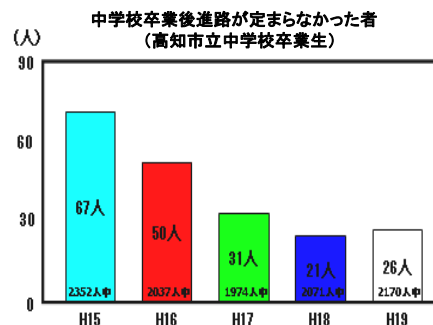
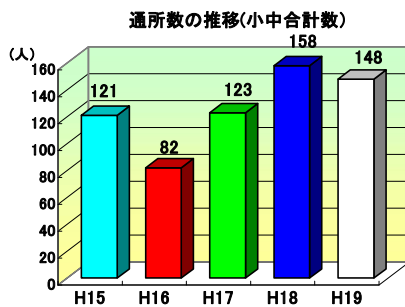
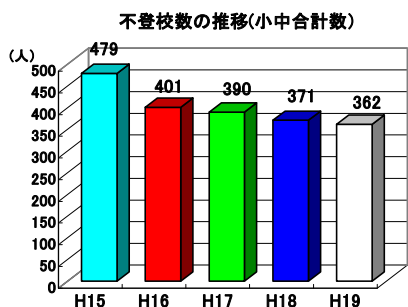
※ 「長期欠席・不登校の予防・支援構造図（裏面）」を参考にしてください。

不登校を生じさせない学校づくり — 進路未定者ゼロをめざして —

どの子にも授業がよく分かり、一人ひとりの子どもに居場所があり、子どもたちが相互に支え合い、教員と子どもたちがしっかりと信頼関係に結ばれた、子どもたちが行きたくなる、来たくなる、魅力ある学校



取り組みの成果（社会的自立・進路保障）



※ 平成19年度は、5月1日現在の状況(平成19年度から春野中を含む)